京都教区広報委員会 (編集長 村上透磨) 京都教区本部事務局 京都市中京区 河原町通三条上る TEL 075 - 211 - 3025 FAX 075 - 211 - 3041 honbu@kyoto.catholic.jp

•

Home Page http://www.kyoto.catholic.jp

4345

「被造物とともにささげる 7 頁 キリスト者の祈り」

点訳版「京都教区時報」〈無料〉 ご希望の方は点訳ネット「レジ ナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さ んまでお申込みください。

TEL • FAX 079 - 431-8601

2

0

1

8

年

司

教

年

頭

書

簡

わ マ た l は は

じ

め

に

は、味 ち 見 る 口 さ コ 0 テ Ö 事 は 勅 11 フ ラ 古 0 لح 5 あ 0 な 1 と人間 守護聖人 思 神と、 造 ン 調 れ 0 な 夕 工 1) する た 清 主 シ 和 る 1 イ コ ま 貧 夕 は ス 0 口 今年 1 う らす。 称えら 他者と、 教皇 0 IJ 0 0 コ エ ジ ル め生き方は、 内的 ちに つであ 取 ア コ 0) 0 力 0 語 環 り上 フラン 口 ル 年 太陽 です。 な平 れ 生 る 境 ジ ラ な シア 頭 にます 艄 きた神秘 自然と、 げ カ ゥ 口 書 -和が密な シ 然 0) 心 シ 題 ル ダ 簡 よう 替 ジ 貧 な ス 1 で、 0 0) 取回 0 歌 0 コ 0 1 自分自 1, 聖人 家であ 聖フ 思 接 に り 心 口 0 モ \bigvee 0 組 勅 1) 口 デ 0 لح ラ 境 々 P 祈 む を で 勅 ル |身と 教皇 問 りに 紹 ン 0 り 1,1 り す لح で シ た に う ラ 題 ベ 介 す。 は 湛 意 ま あ 0 ス 7

コロジカルな回心 シ

> 京都司教 の 呼 び パウロ か け

LAUDATO SI'

ON CARE FOR OUR COMMON HOME



で 0 問 な か わ かわ れ まし る 自 り 0 妖 だ 間 は 神 0

け

を 0

問 か

か わ P

わ れ 他

り る

b 0 7

1)

る

を

証

す。

2018 前

コ

口

ジ

力

ル

な

口

が

必要だと最

名前をいます。 な破壊と危機を憂い、 ウ ます。 しようと呼 コ ② 他 『ラウダー 口 n か 75 ジ 者と ただく 一で そ 通 Ó わ か 力 そ け 0) 口 り れ す ル 家に住む人類全体 心 は、 びかけてい 0 Ó 0 が た 解 教皇 な です。 か 口 ١ 0 心 回心 決の (1) は、 か 主は、 わ 褲 とし لح 聖 そし ため り フラン ます。 0) 地 0 0) フランシ 0 に具 問題 |球環 て (4) 自! 中 口 か 心 て か で、 \exists 起を、 体 で真 境の 展 わ ス スコの 開 ネ 己との コ 的 り 4 一剣に 深刻 はそ 地 0 L つ 球 然 7 の 口

B

段落番号です 0) 数字 すは、 口 勅 「ラウ ダ 1 1

『ラウダ | |-の 出発点

染みに な P を意味 なり 方で、 運 工 環 さらに コ 境に)ました。 人間生活と自然環 口 わたし ジ 配 ますが、 て理 1 健康 慮 したした したち 近 解 に 年 3 略し (J 一では、 にも れ (J 環 」「自然な す 7 境 境 負荷 環 に関 エ っ 工 境 コ は コ か と呼 に優 ける り馴

> n 15 0) と自然環境・ を W 相互 観点で捉える ています。 ま ず。 つ 態系の構 関係、 たところにまで意味が拡大さ **『**ラウ 成一 生 物質循環·社会状況 ダ 態環境、 エ 1 員としてとらえ、 コ 口 ジ 1 自然環境と幅広 に で つい て語 などと

と訴 人々、 決のため で 何 て、 視点です。 ゆるも 環 教皇フランシスコ 境問 つな えます 諸宗教の の地上で無関心 に 題を共有 工 1) 0) あら コ そこで、 0 13 は 口 で つ ジー ゆる分野の人、 な 3 16 々と対話を促進し ľ が 運動を先導して の考えの 丰 7 つ しでいら $\stackrel{\acute{6}}{\smile}$ ij てい スト 9 世界 れるも る」とい 基本は、「あ 哲学者 者 そ 中 に (J 0) 0 0 解 皆 は う

総合的 (インテグラル)なエコ

10 るごと、全く傷の ください 1) な を手本とする うことば 工 $\frac{1}{2}$ コ 皇 この おい 口 ジ ラ イン は 1 て、 1 ン 重 ンテグラル シ 要で 『総合的 という言い方をされ テ ア ス ない グ ラ す ジ コ は \$ の ル 0 (イン とは、 で、 聖フラン (integral) ラ ぜ ウ テ ひ覚 グ シ ラ えって ス ル لح

> ウダ ですが、 インテグラル」と明 Ì 」と訳し、 ト・シー 近年、 などと多義に 0 「完全なもの」、「全人的 原 司 意を残 記 尌 い訳され の邦 しまし すため 訳 、ます。 た。 で は、 ル ビ 「ラ

章を読 全人 の持 れ む ţ つ に 力 総合的 れつあら つい 神と 的 3 0) 自然とのかかわりだけ 1 ŧ な意味 IJ 3 ま 0 工 7 ッ つゆる側で なエ かか コ は L ク う。 口 ょ う。 ジ \neg コ わ ラウ 力 口 り 面を排除 6 で ジ ル 間 いう は、 ダ Ì な 同 それ 1 口 士 エ なの 1 l で 心 の ら全部 コ なく、 れ な か です 口 から に 15 か ジ 0 を含 わ 1 順 四こ 間 う 7 に り لح



(3)

غ の か か わりの 回

は

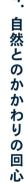
0)

秩序を保つということに

あ

調和を乱してしまい る神と、 境に対する人間の罪です を読んでください。 **『**ラウダ う責任をはきちが 、間と自然との関係を壊してしまい 地を する霊 地を従わせよ」 1 人類と、 れ 「従わせ」 <u>۱</u> は \bar{o} 守る」 的 調 か わ 全被造物との間 たし か 和の 第 ノえ、 人間は、 ました。 (創世 わ (創世 たち り 一章 という 口 調和が Ó 復 記 66 信仰 記 口 創造の を指 1.28参照 創造主 2 心 神 لح れ に その結 15 の が、 れ に 0 つ)ます。 福音 たある であ (J 意 7 Ū 環 لح 図 ま

をもっ です う霊 を逸脱し 0) くことが く引き受け が る 想を受け入れることは ということを軽視、 るなら、 てしまい な支配を正当化する誤 濫 に です。 間に 間 無制限の権利 用し、 人類に託 \$ が 神に は、 か 不可 ては 神が全能であ 聖書から見 わら エ 工 ました この被造 全面 神の コ コ なけ した自然に対する責任 はなら 口 欠なのです。 口 (被造物) 創 れ 的 ジ ジ は 67 ばなら 造のみ カル な 1 6 間 依 では、 たエコロジーを考え (J 神に対し のです。 存 な できません しくは否定する思 り は と向 当たり前 つ ず、 大地 するという原則 口 わざを踏みにじ た考え 創造主 横 被造物として 心 これ の始 き合うとい か 0 人間 支配 て謙 を正 一である に 抑 のこと ま に 75 虚さ 気付 圧的 n は神 陥



生す 体に 活 ら こした環境問 ラウ るため 及びま る能力をはるか 自然との ダ 1 ず。 の 1 資 題 かかわり 環境問題 をとり に超える範 は 題 て 0 あ とは、 口 つ か 心 自 1然環境 間 は う 0 が ?引き起 間 用 口 で すか | 勅全 が が (速 垄 再

> ţ よっ ない た自 それ る環 です。 先進国が開発途上国に返済すべき「 を読むと、 ていることがよく に暮らす家に起きていること」 ロジカルな負債」 P 国勝手 水問題も、 て、 境破 問題なのです。 5 量 『ラウ が人間の た資源 複雑 壊 で自 現在、 ・(ファ 0 ダー 配の利己: か 実態が科学 生物多様性の減少なども、 然を採取 つ 0 と見 、わか \vdash 地球上で深刻化し 連 1 占的 鎖 ス 渇や環境 的 <u>۱</u> なさなけ ります。 自分勝手な、 に引き起こされ 的に説明 第 の経済活動 汚染 破壊 20 章 気候変動 れ i ば 0 なら エコ 問 た結 7 れ 61 に 1)

機をい に人間 間 考え ます。 人間 が 済活動や生活文化は必ず向 危機と人間的根 『ラウダー ない と社会と自然との調 に 方で というも 開 0) くら 根 その中核 と教皇は の根源的危機を認め 源的 した技術を使えば、 7 0 描写し説明しても、 恩 ト・シー 危機は、 0 ゆ 恵 とは です。 源 か に がんだ考え方に表 言わ にある では、 别 n 第 和は 現実に の 人間 つまり、 ます が 章 なけ 崩 世 0 上すると 「技術至上 態学的 は あら 1) 101 生 人類 のちと活 れ そ 地 利 ゆ ħ ば 0) Ź が高 この 意 原 7 な 主 味 因 的

聖書が教えるように、人間だけで起こっているのです。

を歌 な用 へに としてはならないのです れが固有の目的を持っている事実を見落 互に密接 関し されました。 のまなざし」 神が造られたあらゆる被造 察眼を披露し 望 7 生. て、 き ながります』_ 0) に関 いるように感じることは、 物が、 中 教皇は日本司 0 調和 に 係し わ (2001年 日本司 それぞ たしたちが喜び 0 してくれ ています。 中 『教団は、 教団 れ ました。 0) 84 度 1) 0 版 物そ 0 この点 啓発的 たは、 生 ち た 『それ Ü で を引 のち れぞ 神 0 が は 歌 っ 相 0) な



5. 他者とのかかわりの回り

ル)な回心には、158)。したがって、 なく 絶望的で屈 大目に見続ける、 は他人よりも価値があると考える人々を れます。 スコはさらに厳しく でした」とのべましたが、 0) 口 لح は できません。 利を考慮する社会的視点を欠かすことは 93 善益の 産 < は同 、をも排除したり、 2世は、 は、 つながってい で 0) 今 状況 あ Ė 生命を維持するため とんでも これが、共通善の んは、 根なのです。 人類のだれ一 り、 ためにあることを認 とりわ に 辱的 大地 仰者 置 そ 一神が大地を全人類に って、 貧しい人々と地 むなしくも見か か 0) ない不平等です。 て、 な貧しさに陥って出 は本質的 0 れ であろうとな 実 け憤慨すべきは、 わたし 貧しい・ 所 てい 総合的 り 人として欠ける 教皇聖 指 優遇したりしません 貧困問題 有 は、 物 摘 . る人 であ 原理 0 たちのただ中に 人の基本的 あら 共通 て、 教皇フランシ 扱 \exists (インテグラ んがい めて っです り ハネ けの優越 1) 球のもろさ かろうと多 こう言わ 環境 ゆ 方を省 0 るの 神は何 与えた る • (J 相 方で、 156 こと 問題 ま パ な権 続財 0 ウ

> この 人が 元せびら 星 ます」 が壊 ることを、 90 気れるほ どの たしたち が 廃 同じように 棄物 を後 は に す 残 か れ す

要が こそ、 に基 明性 てい 概要」 コロ 代も含む世 ジー 認め 貧困 キリ は、 けでなく、 ば は 219 な 真摯なご ますが、 必然的 なけ づく行動計画が有効となるからです。 政 ジ あるのです。 をめざすために、 の 0 り や格差の社会問題に取 スト者が環境問 第五章 カル 総合的 あ 治 で、様々なレベルの連帯が提案さ ません 教皇の指摘を受けて、 口のあら る対話 n 共同 な回 代間 対 ば に隣人への 159 そこで強調 話 な (インテグラル) 「方向 体の 『正義を写 心 ゆ 0 りませ)必要性 この ょ Ź では、 つ 転 回心も求めら 162 題 連帯に ٥ 視野 換 んへ 人類が連帯する必 真摯な愛を持 に ル 一です。 され の指針と行 こうし 向 責任ある良心 個人の回 91 り組む責任を には、 き合うと てい 入れ わ なエ 社 誠 たし て、 だ 実で透 なけれ 将 れ ること ます 心だだ から たち 工 れ 0 口

6. 自己とのかかわりの回心

ているという視点で環境問題と向き合えこのように、すべてのものがつながっ

1) 然や環境と す 危 切 ば りを は できな 7 危 0 機 間 間 0 兆 ば か 候 新 が 論 性 0 1) か で 人間 解 な することは 0) 刷新な あ 0 か わ ŋ です か りを の倫理 り É 0 わ 工 す りりを 人間 L コ 11 119 P 的 口 不 118 () すこと 0 ジ 可 文化的、 自然との P Ì \$ 能 現 などあ とな つ な 根 在 7 本的な 0 1) 霊的 生 り か 自 熊 滴

て受け 世 0 L 直 に たが ょ は 接 た ح は 1) つ れ 0 て、 物として受け か 155 けっ 関連 れることは、 て 間 か わ 工 身体を神 して自分自身の体に対して 境と他 りの コ 間 て、 口 は ジ 中に 自 1 教皇 取ることなのです。 0 分の i に 全世 からの 置 生き物たち ベ か 身体そ ネ 界を御父から つい れ 贈り物とし デ 7 7 1 () 0 語 ク لح ま \$ りま 卜 らす。 0 Ō 16

> 対的 L な け 分 権力をも 0 れ 身体を ば な つ り ませ 正 ていると考えては なら

うとし 関心を嘲笑するよう は、 ラン 義や ジ で 力 力 口 な は が は、 す ル ル 心 なりませんし、 力 求 の り な教育 かめら な霊 ŧ な 実 熱 よう ル シ 216 間 せ (J 用 スコ 心 な 0 でよく ん。 消極 主義 内的 百身 性 必 れ が 7 要を謙虚に認 信仰者 唱え を深めていく務 的 に 口 1, 0 環 るの 内的 なキ かこ 祈 心 境 た、 自 問 な な を推進 題に取り 分の ては は IJ で 調 丰 つ 0 です。 す。 ・リス ス け 今 和 習 卜 工 て、 (,) 日 を め 者 ても、 **|** 慣を変えよ コ で 口 り - 者で 環境 であ れ 8 口 わ 復 する が 工 工 ジ た う が あ た コ 力 つ 現 L あ コ 工 た 実 る 7 0) 聖 回め 口 口 ル つ コ

7

主 ち フ 心 に

口



T

0) ジ ジ な \$

ませ 0 き方をただ後 (,) 丰 う SY, IJ か から Ź ス け 口 工 口 1 の 0 ス 心とは、 心 者 方向に向きを変えるとい 呼 0 傾す は 宣言 S. て、 何 か 事 る これまでの け に 福 だけ に 戻らな に 音 t 応え を信じ で んるため は 神 け 誤 あ 0) れ な り ば 玉 3 た生 ま なり が (J 世 近

> Encyclical letter on care for our common home

放され 具体 る創 に住 忍耐 ため、 タイ くく 合的 めに、 者は 方向 をもっ 応 す ので満たされ 勤 に れ ル た新し 的 まわ とは、 信仰 実 ば 造 つ ル 0 な 転 |概要| んよく た自由な 生活の 被造 て、 で イ に が 口 践 換 水めら す。 は ン 0 心 を命じるも たとえば、 を できるよう アと 時 節 テ 次 より豊かなこと」 (,) 観想するの を参考にしましょう。 る清貧 あ 間 度 特 グ \$ わ を ライフ 元 及ある成品 に 味 Ŧ. たしたちを包 を 0) れ ラ 5 で環境問題 同じことです 調 ます かう ゆる 章 ĺ か 和を回 け、 食前食後の 消 ス 0 0) に 生き方 方向 長と、 活動 観 夕 です な で なり 1 $\widehat{222}$ 想的 わ 工 す 0 た 復 コ を に ル 0 ŧ 0 つです。 という しんでく 執着 を模 反 取 換 したち する わ なラ 口 225 ずず ょ 祈 す 省 ジ り 丰 工 から た か り 1 索 1 組 コ り 1) そう ださ 信 b な 小 0) 8 そ フ む に ス 口 に 0) な ス 解 7 適 た 1 ジ

8 祈

http://www.kyoto.catholic.jp

ろを向け、三位 深めるためには、 ま 問 わたしたちの地球の 工 がこの 物 0 す。 ラン を祈らなけ 密接に結ば かけです い呼 コ をもっ され に込めた教皇フ を、 Ũ, とともにささげるキリ 目的、 勅 口 訚 に 一界を残そうとするの そ か シ ジ てい 世界に存在する理 関してだけでは ラウ れら つつ け ス の根本的な生き方への問 れ わたしたちに投げかけ カルな回心」 て、 は、 コ ながらも、 そして人間 (160)。 この ・ます。 0 ある子どもたちに、 は、 ダ いれてい れ 祈 ī の神からの 後続する世 ば 環境問 0 創造主である神にここ ŋ 1 なりませ ランシ に 口 、ます。 ため |勅を もっ は の働きの意味 を信仰者として 問 なく、 題 の祈り」と「 **『**ラウ 照ら か、 締 1) に スコの 由 に向 だからこそ、 代の人々 ん。 ノスト は、 8 や生きるた お という っておら しと励 わたし き合うよ 根 教皇 1) ダー 者 ただ 思 U 源 7 1,1 0 か 0) は 祈 た 環 け な ょ



2

8

月

 $\bar{\exists}$

· 年 1

神 1

IJ 1

『ラウダート・シ』で繰り返される 10のテーマ 5つの視点

1. 貧しい人々と地球の脆さのつながり	貧困問題と環境問題とは同根
2. あらゆるもののつながり	貝四回起と場場回起とは回依
3. テクノロジー由来の権力構造(テクノクラシー)	経済を巻き込み政治を左右する
4. 本来の経済?本物の進歩?	性はであるだが以近で圧力する
5. それぞれの被造物の固有価値	- 自然の中の人間の位置とその責任
6. 人間存在にふさわしいエコロジー	日然の中の人間の位置とその責任
7. 率直で正直な討議	- 健全な集団的意思決定を支える対話
8. 国際的/地域的政策の責任の重さ	
9. 使い捨て文化	- 文化を変えうるライフスタイル
10. 新たなライフスタイル	スルでダルブのブイブヘブイル

りました。

一被造物とともにささげる キリスト者の祈り」

父よ、

すべてのものは、 あなたが造られたすべての あなたをたたえます。 全能のみ手から生み出 ものととも

すべてのものはあなたのもの、 あ なたの 現存と優しい愛に満たされ

されたもの。

ます。 なたはたたえられますように。

神の子イエスよ

万物は、 あ なたは母 あなたによって造られました。 マリアの胎内で形づくられ、

この地球の一 人間のまなざしで、この世界をご覧にな 部となられ、

すべての被造物の中に今日も生きておら あ なたは復活の栄光をもって、

あ なたはたたえられ ますように。

れます。

(7)

この世界を御父の愛へと導き、 聖霊よ、 あなたはその光によっ

苦しみにうめく被造物に寄り添ってくだ さいます。

善をなすよう、 あなたはまた、 わたしたちの心に住まい、 わたしたちを息吹かれま

いなたはたたえられますように。

あ

す。

の 主 てい

わたしたちに教えてください 無限の愛の驚くべき交わりよ、

宇宙の美しさの中で、 あ すべてのものがあなたについて語る場で、 なたを観想することを。

ると感じる恵みをお与えください。 存在するすべてのものと深く結ばれ 賛美と感謝を呼び覚ましてください。 ふさわしい、 あ なたがお造りになったすべての存在に 7 ()

愛の神よ、

地球上のすべての被造物へのあなたの愛 この世界でのわたしたちの役割をお の道具として、

示し

あなたに忘れ去られるものは ください。 何 つ な

からです。

無関心の罪に陥らせず、

るよう、 共通善を愛し、 わたしたちの住むこの世界を大切にでき 弱い人々を支え、

権力や財力をもつ人々を照らしてくださ

貧し

人々と地

球とが

叫

んでい

おお、

ください。 あなたの力と光でわたしたちをとらえて よりよい未来をひらくため、 すべてのいのちを守るため、 主よ、

のみ あなたはたたえられますように。 正義と平和と愛と美が支配する、 国の到来のために。 あ なた

大塚司教の

1月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



1日 月 10:30 「神の母聖マリア」新年ミサ (河原町)

5日 11:30 司祭・修道者 新年ミサ (河原町)

7日**回** 9:00 女子カルメル修道会 ミサ (衣笠修道院)

10日 13:00 中央協 予算検討会

11日承 10:00 中央協 常任司教委員会

14日 12:00 河原町教会 英語ミサ

21日 9:00 山科教会ミサ

24日®-25日® 大阪教会管区司教会議 (京都司教館)

26日金 17:00 教区カトリック学校委員会

28日间 11:00 松阪教会ミサ

29日 14:00 司教顧問会

30日_② 10:00 故 パウロ古屋司教命日 衣笠墓参

14:00 福音宣教企画室 会議

31日承 11:00 中央協 列聖推進委員会

1月のお知らせ

修道会

男子カルメル修道会(宇治修道院)

Tel.0774(32)7016 Fax.(32)7457

一般のための黙想(中川 博道師)

日 時:13日生 17:00~14日 16:00

テーマ:日常生活を次の世代のため

参加費:7,000円

水曜黙想(九里 彰師)

日 時:24日承 10:00~16:00

テーマ:イエス・キリストと聖パウロ

参加費:3,000円

キリスト教霊的同伴(九里 彰師)

日 時:26日金 17:00~27日生 16:00

参加費:7,000円

諸団体

京都カトリック混声合唱団

練 習:14日 14:00/27日 18:00 ミサ奉仕後 カトリック会館 6 階

聴覚障がい者の会(どなたでも参加可)

手話表現学習会(聖書と典礼)

日 時:11日承 13:00 カトリック会館6階

心のともしび 番組案内

テレビ(衛星スカパー.ケーブル)スカイA

每週土曜日 朝7:45

新シリーズ 「喜びと平和のうちに |

出演は松村 信也師(イエズス会)

1月のテーマ「新たな一歩」

※ 3月号の原稿締切り日は1月24日永です。